

**倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第3回） 会議録**  
**医療・福祉・教育部会**

- 1 開催日時 平成22年11月24日（水）13時～15時
  
- 2 開催場所 倉吉市役所第3会議室（東庁舎3階）
  
- 3 出席状況
  - （1）委員 出席者5名（小谷部会長・桑本副部会長・池田委員・森本委員・村島委員）
  - （2）事務局 3名
  
- 4 目的 次に掲げる事項を検討、確認するために懇談会を開催したもの。
  - （1）医療・福祉・教育部会（第2回）の会議のまとめ及び医療・福祉・教育分野におけるSWOT分析の結果について
  - （2）圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について
  - （3）定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
  - （4）第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて
  
- 5 次第
  - （1）開会
  - （2）あいさつ
  - （3）報告事項
    - ア 医療・福祉・教育部会（第2回）の会議のまとめについて
    - イ 医療・福祉・教育分野におけるSWOT分析の結果について
  - （4）検討事項
    - ア 圏域の課題と可能性の検討及び整理について
    - イ 圏域における将来像の方向性の検討について
  - （5）その他
    - ア 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
    - イ 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて
  - （6）閉会
  
- 6 資料 別添資料のとおり
  
- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び検討を行った。
  - （1）医療・福祉・教育部会（第2回）の会議のまとめ及び医療・福祉・教育分野におけるSWOT分析の結果について  
第2回懇談会（部会）で意見交換した内容を整理した資料に基づき、前回の部会の検討

結果を報告し、確認し合った。また、部会の検討と併せて事務局側で実施したSWOT分析の結果を報告し、圏域の強み、弱みなどを確認し合った。

- (2) 圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について  
上記(1)の確認内容を踏まえ、圏域の各分野の課題を抽出し、圏域の可能性を整理した資料に基づき、圏域の課題と可能性を検討した。また、圏域の現状、課題と可能性等を踏まえ、圏域の将来像の考え方を整理した資料に基づき、圏域の将来像の方向性を検討した。
- (3) 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて  
資料に基づき、第1回懇談会(全体会)で説明した定住自立圏構想の手続きの流れと現在の定住自立圏形成協定の協定項目について再度説明し、確認し合った。
- (4) 第4回懇談会(全体会)のスケジュールについて  
次のとおり日程調整を行った。  
平成22年12月27日(月)14時～16時 倉吉市役所大会議室(本庁舎3階)

## 8 会議内容(要旨) 以下のとおり

---

### 会議内容(要旨)

#### 1 開会

##### ○ 事務局

これから、倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会の第3回部会として、医療・福祉・教育部会を開催させていただきます。それでは、始めに小谷部会長から御挨拶をお願いします。

#### 2 挨拶

##### ○ 小谷部会長

それでは、第3回の医療・福祉・教育部会となりますが、皆さん、よろしくをお願いします。

#### 3 報告事項

- (1) 医療・福祉・教育部会(第2回)の会議のまとめについて
- (2) 医療・福祉・教育分野におけるSWOT分析の結果について

##### ○ 事務局

まずは前回の懇談会の報告ということで、次第3の報告事項に入ります。

前回の懇談会の中では、中部圏域の現状を説明させていただき、委員の皆様方から医療・福祉・教育の分野で特に充足しているもの、不足しているものを含めて、自由に御意見をいただきました。その結果をまとめたものが、こちらの表になります。

この表で医療の分野をみますと、医療基盤は一定に整っている認識だったかと思います。それから、在宅・訪問医療を進めている機関があること、看護学校で定員を増やして人員の補強をしていること、また、診療所と病院間の医療機関の連携がとれていることなどが充足

している面での意見となっています。一方、課題としましては、重症者への対応をはじめ、産科医が少ないのではないかということ、へき地医療地区への対応、高齢者の通院手段の確保に困難な面があるということ、がん検診の受診率が低いことなどの意見がありました。

福祉分野については、施設・サービスの種類が非常に整っているとの意見がありました。また、様々な協議会やケアマネ会議などを通して、各市町の中で連携が取れているという意見がありました。一方、サービスが充実しているがゆえに、数が多いことで質の低下を招いているかもしれないとの意見もありました。それからサービスの地域差があるということ、サービスが上昇しているがゆえに、利用度が高まり、介護保険の認定率が上昇しているのではないかという意見もありました。統計的に見たところ、圏域内での認定率は微増している状況でした。子育ての福祉の面では、子育てに悩んでいる家庭がどこに相談に行けば良いのか分からないという意見もありました。

教育の分野に関しましては、学校機関と地域との連携、短期大学との連携が図られているという良い面がありました。また、生涯学習施設を含めて、体育施設が各市町で充実している分、その利用に対する環境面で課題があるとの意見がありました。それから、今後、学校の適正規模を検討する上で、学校の統廃合が問題になってくるということ。また、家庭教育の部分が一番課題であるという意見もありました。

前回の部会でいただいた意見に関しては、このようにまとめさせていただいております。

次に、資料2でSWOT分析による圏域の課題と可能性の整理について説明します。この資料につきましては、充足しているもの、足りていないものに関する皆様の意見を踏まえ、更に、文献資料などから中部圏域の強み、弱みを整理し、改善していくものと今後伸ばしていくものを抽出するためにまとめた資料となっています。

表にSWOTの分析の用語解説を付けています。要は、社会の動向やニーズである外部要因の機会・脅威の部分と、内部要因である強み・弱みに区分し、現状を整理させていただいたものと御認識いただければと思います。

次のページが、医療・福祉・教育分野のそれぞれにおいてSWOT分析をしたものになります。医療分野から見ると、強みは大学と医療の連携があることや、圏域内での医療・福祉産業の就業者が多いこと。それから、二次保健医療圏としての医療基盤があり、特に、倉吉市、三朝町では、病院や診療所数、歯科診療所数の統計が県内の中でも高い位置にあること。また、病院診療所の連携体制が整っていること、各医療機関が専門医療の分野をもってお互いに役割分担されていること、在宅医療が進められているということも挙げています。それから、助産師の確保など力を入れている面があるということ。このようなところが強みとなっています。

弱みとしましては、先ほどの意見集約の部分と重複しますが、小児科医や産科医が不足傾向にあること、救急患者数の増加、ニーズの多様化による医療機関への負担の増加、重症者への対応、高度な専門治療が圏域外になるということもありましたし、平日夜間の診療体制が不足しているということも挙げております。

このような強み、弱みを内部的要因と示させていただいて、次に外部的要因として医療の面では、非常に安心、安全の意識が高まっているということ、地域密着型の基盤を望むような在宅サービスなどのニーズ、医療ツーリズムなど、新しい展開を望む社会動向もうかがえ

ます。脅威としましては、やはり全国的な傾向ですけれども、医師不足や病院の数が減っていることが正直あると思われまます。

医療の強み・弱みや内部・外部要因から、さらに中部圏域として伸ばしていくもの、改善していくものとしては、安心できる医療基盤を更に充実させていくことと、やはり細やかに小回りがきく連携体制が一つ大きな伸ばしていくべきところだと思います。改善していく部分はいろいろあるのですが、記載のとおりにまとめさせていただいていますので、また御確認ください。

それから、その隣の福祉の分野になりますが、強みとしては、中部のサービス基盤があるということ、連携体制が図られているということ、また子育てや障がい福祉についても基盤があるということなどをあげています。あと、ボランティアが福祉分野でも活発に行われている面と、倉吉市、三朝町では男性の平均寿命が県内でも上位であること、琴浦町、倉吉市は女性の平均寿命が長いという統計もありました。いきいきと長生きできる、そういった豊かに暮らせるような面が圏域の強みとしてあると思います。

一方、弱みの面としては、サービスの質の低下、市町間のサービス格差、育児などの相談体制の確保を挙げています。また、認定率の上昇や認知症高齢者の増加、民生委員の担い手が少ないということ、それから、意見のありました公民館での福祉関連の講座が少ないということも挙げています。

社会動向としては、健康志向であったり、安全、安心の意識であったり、ボランティアを活発に行う社会参加へのニーズも傾向として出てきております。脅威としては、特に、少子化・高齢化が進んでいくということ、それに伴う介護、福祉に関連する問題、他にも全国的に介護のサービス利用が高まる反面、介護保険料が上昇している傾向がうかがえます。

伸ばしていく部分としては、福祉の基盤です。維持しつつ、より充実させていくことが大事だと思います。ボランティアのニーズなどもありますので、地域福祉分野として全体で充実させていくことが必要だと思います。

教育分野については、強みは上位ランクの学力ということで調べますと、鳥取県が全国で6位の位置にあり、その中でも中部圏域は力を入れておられるということ、また、教師の数の増加ですが、三朝町、琴浦町では、児童に占める教員割合が県内で上位となっています。それから、学校と地域の連携、短期大学との連携があること、特別支援教育や体育施設、生涯学習施設が充実していること、また、スポーツも盛んだということも強みとして挙げています。対人口割合での比較ですが、湯利浜町、琴浦町は県内でも公民館が多い方だという統計もありました。

弱みとしましては、やはり家庭教育の問題、今後の学校の適正規模の課題、不登校児童の出現率の増加、施設利用面での格差の是正・有効利用の問題などを挙げています。

機会としましては、現在の学力における国際競争面でのニーズ、いろんな趣味やスポーツニーズの高まりがあります。それから、脅威としては、園児数・生徒数の減少、いじめや不登校の問題が全国的にあると思います。

教育分野で今後伸ばしていくものは、やはり充実した教育体制、学力の向上等を図り、それから、生涯学習・スポーツ振興の環境を更に伸ばしていくことが考えられます。

大まかに説明しましたが、このようなところから、特に医療・福祉・教育で一番感じたのは、比較的、水準の高い環境が整っているのです、それが今後の地域の安全、安心面の構築に繋がる可能性が大いにあるのではないかと思います。

以上の部分が、前回の意見をまとめた報告と、文献等を調べた中で分析・整理させていただいた部分になります。

では、今の資料のところまでで、御意見いただきたいと思います。

○ 桑本副部長

資料1について、体育施設のところで、「競技場があまり使われていない」という書き方が、これでは誤解を招くと思います。倉吉市の陸上競技場は、小中学校の大きな大会ではなかなか使われないこともあるが、練習ではよく使われています。

小学校の大会などは市内で行っているし、それから強化合宿もほとんど行っています。記録会もそうです。泊まりながら合宿する環境は、鳥取や米子にはなく、こちらにはスポーツセンターに合宿所がありますので。

○ 事務局

表現を訂正させていただきます。

○ 池田委員

医療分野では、在宅訪問医療と、それと重症者のことについては、もう少し検討する必要があると思います。在宅支援診療所は中部に8つあるが、それらが病院とどのように連携しているのか、実際にそれらがどのように機能しているか、医師会の方としても具体的にとらえることは難しいと考えています。今、日本医師会も地域の中の在宅の機能がどのようになっているかを調べているようで、結果はまた出ると思いますが、その辺で「在宅支援診療所と病院との間の連携」については検討しないといけないと考えています。

それと、重症者への対応で「3次救急は東部か西部に」ということについてですが、これについて厚生病院はだんだん充実してきて、心臓を開ける手術や重症の火傷、それ以外は対応できる状態になっているようです。ただ、救急救命センターというのが県の方でも中途半端になっているようで、ある程度、設置の予定ではあるようだが、実際は3次救急という点で、命に係るものは取り扱うように厚生病院も積極的に行っているようです。ただ、私が思うのは、あそこにせっきやくヘリポートがあるのに、厚生病院で年に何回くらい使われているのか、あれを中部の医療圏でもっとより良く使えるようにしたらと思います。ヘリの降りられるところでいえば、野球場や河川敷もありますので、何も厚生病院のヘリポートを使わなくても良いという考え方もありますが、東西部に患者が行かざるを得ない状況の時は、あのヘリポートを使えるようにしたら良いと思います。それぐらいであれば、よくまとめていただいていると思います。

○ 事務局

検討、修正させていただきます。

○ 森本委員

福祉の分野で、サービスの地域差のところで、「訪問リハ、通所リハのない地域がある」としていただいた方が、誤解がないかなと思います。全般的にそういう現状だと書いていただいた方が良いと思います。

- 事務局  
修正しておきます。
- 村島委員  
資料2の福祉の弱みのところで、「育児などの相談場所・情報が少ない」とありますが、保育所だけで23か所、それぞれで相談機能がありますので、数としては少なくはないと思います。数よりもむしろ周知ではないでしょうか。
- 事務局  
分かりました。周知の面、情報の面ということで修正させていただきます。
- 森本委員  
「介護サービス等の数や種類が多いことが、質の低下を招いている」とありますが、サービスの低下が種類の多いことによって招かれていると断言していいのかどうか。
- 事務局  
懸念があるということですよ。
- 森本委員  
どこの保健師も研修やセミナーを受けて質の向上を図っていますので、そのような表現をお願いします。
- 事務局  
分かりました。
- 池田委員  
資料1の医療の分野の通院手段の確保のところで、「病院単独で送迎しては患者の抱え込みに繋がる」とありますが、料金をとらないという方向でやっているところもあるかもしれないが、これは私も医師として、どうすべきかと日頃から考えてはいるのです。医療と福祉で連携して通院サービスがしっかりと構築されれば良いと思います。私は、過剰なサービスは禁物だと思っていて、過剰な宣伝、過剰な広告、過剰なサービスは医師としてやるべきではないと思います。という意味でなるべくしないようにするためには、福祉との連携、公的な通院サービスが必要だと思います。その辺を付け加えさせてください。
- 事務局  
はい。分かりました。
- 池田委員  
近所のかかりつけ医で受診している人、重症の人、がんで在宅にいるような人が、そこで重くなると、病院にいけるような在宅支援診療所の間との連携が取れたらと思います。ただ、それが現状では在宅支援診療所の資源と能力によっていろいろ変わってくるので。
- 事務局  
在宅支援診療所は8つあるのです。
- 池田委員  
8つあります。
- 事務局  
前回の会議の中身としては、大体このような形であったということで、よろしいでしょうか。今、委員の皆さんから御意見のあった部分に関しては、事務局にて修正させていただきます。

ます。

#### 4 検討事項

- (1) 圏域の課題と可能性の検討及び整理について
- (2) 圏域における将来像の方向性の検討について

##### ○ 事務局

資料3の第2章の圏域の課題と可能性をご覧ください。

まず圏域の課題ということで、一番始めの項目群に人口による傾向からの大きな課題等を示しています。圏域の総人口は減少傾向にある中で、このままで推移すれば少子高齢化の進行とともに、地域活力の一層の低下が懸念されるということ。また、全国的な人口減少社会の到来に対して、子どもや女性を含め、多くの人々が活躍できる活動の場、機会の創出に努めることが必要になっているということ。そして、今後の流出人口を抑制するためには、まずは住みよさ・暮らし良さを向上させる取り組みを充実させて、魅力ある圏域づくりを進め、圏域外また国内外からも人を呼び込むことが重要ではないかとしています。

「1. 暮らしを支える生活分野に関連する課題」について。この部分が医療・福祉・教育分野に係るところです。先ほどのいろんな課題の中で、特に代表的なものをまとめています。

医療としては、二次保健医療圏としての中心的な医療機関もありますが、小児科医や産科医の不足、救急医療、専門医療の必要な患者への対応、無医地区の集落への対応など、誰もが安心して暮らせる医療サービスの提供体制が必要になっています。

福祉としては、今後ますます進む少子高齢化の波に対応するため、福祉サービスの質の向上、サービス格差の解消、また地域に根ざした福祉の充実が課題となっています。

教育としては、一定の教育機関が整っている一方で、家庭教育の問題、不登校の児童の増加、児童数・生徒数の減少などの課題があり、また施設、生涯学習施設についても、充実はしていますが、住民のニーズがより複雑化する中、より多様な学習・スポーツ機会が求められています。そして、より利用しやすい環境整備、施設の有効活用に関する方策等の検討を進めていく必要があります。

「4. 地域づくりを担う人材育成に関連する課題」では、全体的に関連がある部分となります。行政の体制として、職員の数が限られる中で、様々な業務を兼務でこなしていかなければならず、一方で、住民の方のライフスタイルやニーズが多様化しており、職員の方の専門知識や技術の習得が求められている状況です。

また、ボランティアが活発である圏域ではありますが、その反面、分野によっては連携して一体的に動けていないという課題があります。

それから、全国的に財政難で財源が縮小される中、公的支援だけでは住民生活の質を維持していくのが困難になってきています。そのため、協働や共生などの視点から市民参画を推進し、行政、住民、企業、学校、NPO法人等の地域関係者が明確な役割を持って、まちづくりを進めていくことが重要になってきています。

以上、課題ということで、各分野の代表的なところを改めて整理させていただきました。

次に、圏域の可能性について説明いたします。全部で6つ項目があります。

「1. 美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域」ということで、

各部会の意見や統計的資料に基づいた中で、代表的な自然が各市町にあり、この美しい恵まれた緑の環境は圏域の最大の魅力と考えられます。また、そういった風土から、メロン、梨、スイカなど農産物や、和牛、乳牛などを含めた県内でも有数の特産物が生み出されています。その他にも、文化財の指定件数が、県内で上位となっており、非常に多くの歴史・伝統物、文化資源、名所などが存在しています。いずれにしても、こうした豊かな地域資源を有効に活用することが、魅力の向上に繋がるものと思います。

「2. 安全・安心を感じられる質の高い生活支援・サポート基盤がある圏域」としていません。こちらがこの部会に関わりのあるところですが。特に医療機関や福祉サービスの種類・数が備わっており、医療基盤、福祉サービス体制といったところで、その水準は高いものになっています。教育の面でも力を入れており、学習環境や施設環境の充実もうかがえるため、これらを更に伸ばしていくことで、誰もが安心して、安全に暮らしていける質の高い圏域づくりが可能となるのではないかと思います。

「6. 『中部は一つ』という連携意識の高い圏域」について。本圏域の中では各市町間の移動が30分以内のできる範囲であること。そして、昔から中部は一つと強い連携意識をもって、いろんな広域的な取り組みを進めているということ。また、「ボランティア活動」の行動率では、鳥取県が全国1位と高い水準ですけれども、その中でも、中部圏域はボランティア活動やNPO活動が盛んだという声を聞いています。そういった特色でもある、絆を大切にす温かい気風を持った土地柄・気質こそ、人と人を結びつけ、定住を促進するのに欠かせない要素ということで、連携や絆を大事にする要素を挙げています。

以上が圏域の課題と可能性になります。

○ 池田委員

全体として、医療の分野に関する文言について、中部では医師数が多いと前の資料やこちらの資料で見受けられます。ただ、実感として、倉吉市は中心市として数値が高いが、それ以外の町はそれほど高くは感じません。数字として三朝町は病院が2つありますので、基盤はあるのかもしれないが、実感としてはそれほど高く感じていません。

○ 事務局

表現については検討します。

○ 池田委員

もう少しその辺はお願いします。中部は医師数や医療機関が少ないと思います。厚生病院もそんなに大きくはありません。医師数も課題として捉えてほしいです。

また、前段の報告事項に戻ってしまいますが、SWOT分析の医療の分野で、機会に医療ツーリズムへの期待とありますが、あまりにも今問題になっているので、ここに記載するのはどうかと感じます。医師会から言うと、あまり期待されても困ってしまいます。医療ツーリズムは削除してもらいたいと思います。

○ 事務局

今のところ、SWOT分析の資料はビジョンに記載するものではないので、あくまでも課題と可能性を整理していく中での基礎資料となります。そういう要素が外部にはあるということで、よろしいでしょうか。実際にビジョンの方には医療ツーリズムについての記載はありません。それと、先ほど言われていました、医師数と医療機関の数が多いという部分を、

どちらかという課題として捉えてほしいということによろしいですか。

○ 池田委員

検討して欲しいと思います。

○ 事務局

県の統計の中で、人口10万人当たりの数値での比較表では、倉吉市が1位であったり、人口1万人当たりの数値では、三朝町も1位であったりと高いものでしたので記載しました。

○ 池田委員

中部医療圏としては、実感としては少ないと思っています。

○ 事務局

医療面で課題はあるかもしれないですが、今回は中部としての圏域の良さを外部にアピールしていくためには、十分に魅力がある圏域ではないかという視点で書かせていただいています。医師数・医療機関のところについては、また協議させていただきたいと思っています。

○ 小谷部会長

文章表現のところで意見を言うと、「1.暮らしを支える生活分野に関連する課題」と聞いた時に、医療・福祉・教育という分野が頭に浮かんでくるかということです。特に教育が浮かばないように思います。

○ 事務局

もともとこの分野を示す国の言葉では、「生活機能強化」という硬い言葉でしたので、できるだけ軟らかい言葉にする意味もあって、「暮らしを支える生活分野」としました。いただいた意見については検討させていただければと思います。

前回、福祉の面で介護関係のお話をしたので、その辺の課題は書かれていますが、子育て関連の分野で課題に触れておいた方が良いものはありますか。子育てサービスの中でも足りていないものが圏域内であるかと思います。例えば、病児保育とか。その辺いかがでしょうか。

○ 村島委員

括るとこのようなまとめ方になるかと思います。あえて入れる必要があるのかどうかと思います。

○ 小谷部会長

子育てで言うと、通園（通所）される前の3歳未満児の子どもさんのいる保護者の方は悩みを持っていると思います。倉吉市には、「おひさま」があったと思います。だけど、そのようなものが地域にない場合があります。地域にあるからといっても、そこに行くまでが大変です。だから地域の身近な場所にそのようなサービスがあったら良いと思う保護者が結構多いです。

今、私たちも公民館で月に1回、そのような場をもっていますが、そこには、住民以外にも結構来ます。それは母親のストレス解消の場が無いからです。教育とか家庭の問題とか、色々あるかもしれませんが、私たちは少しでもお母さん達のストレスが減ったらと思い、わずかな時間でも話をしたり、ゲームをしたりしています。実際に聞いてみると、行く場所は点々とあるけれども、自分の身近にはないと言われます。現状や統計で、子育て関連の機関は少ないとは言えないかもしれませんが、親にとっては少ないと感じているのかもしれない

ので、そういうのを救えないのかなと思っています。

○ 村島委員

おそらく統計としては少なくないと思っていましたが、実感としては足りないと思われているかもしれないです。実際は、実施されている件数としては、県内でもかなり多い方だと思います。これは倉吉市内だけの話で、周辺の地域までは分かりませんが。

○ 事務局

課題として書くとしたら、子育てで悩んでいる親をサポートできるような体制の充実として、基盤はあるけども、そこをどうやって繋いでいくか、というところだと思います。子育ての部分については検討させていただきます。

○ 小谷部会長

子育ての方々に図書館にいる人も結構多いと思います。読み聞かせなどで集まっています。あそこに、子育てに関するピラを置くとすぐなくなります。やはりニーズがあるのではと思います。

○ 事務局

検討させていただきます。

○ 池田委員

暮らしを支える生活分野に関連する課題で、救急医療・専門医療と書いてありますが、大きく書くところなるかもしれないが、二次救急は良いと思いますが、一次救急、三次救急の対応について、厚生病院がヘリポートを使ったりすることも、その辺をもう少し具体的に課題として取り上げてもらいたいと思います。

それから、無医地区とありますが、本当に無医地区ですかね。へき地はあるが、無医地区はありますか。どのような基準ですかね。へき地という言葉の方がよいと思いますが。

○ 事務局

へき地ですか。分かりました。

○ 桑本副部会長

体育施設・生涯学習施設について、有効活用という言葉はありますが、「施設の整備」という文言を入れてほしいです。実際は、整備が行き届いていないところがあります。倉吉市は、陸上競技場や野球場、ラグビーにしても数はありますが、施設面の整備に手が回っていないのが実態のようです。施設の整備を含めるような文言をお願いします。

○ 事務局

検討してみます。

以上でよろしいでしょうか。では、いただいた意見を踏まえて、こちらの方で圏域の課題と可能性の部分をもう一度まとめたいと思います。

それでは、検討事項の2つ目として、第3章の圏域の将来像について御説明したいと思います。

圏域の将来像の方向性について。こちらは考え方として御理解いただければと思います。定住自立圏を考えた時に、無理なもの、無いものを探すのではなく、現在あるものを最大限活かして魅力を高めていくべきではないかと思います。そのため、資源と機能の再認識と有効活用というところでポイントを置いています。目指すべき方向性としては、先ほど可能性に

も挙げさせていただきましたが、強い連携意識の中で、中部圏域がしっかりと連携し、質の高い暮らしやすさが感じられる定住に繋げていくことが必要ではないかという点と、観光資源や交流拠点など、ポテンシャルの高い地域資源を相互に連携・活用することで、圏域単位での「魅力」を創出することが必要ではないかという点の2つを目指すべき方向性として挙げています。

また、定住圏域に必要なものとして、『守りの機能』と『攻めの機能』があると言われていきます。守りの機能は、生活圏域内で住んでいる人々の暮らしや生命を守る取り組みです。医療、介護、教育、交通網の整備などの機能になります。それから、『攻めの機能』は、どちらかと言うと圏域外への取り組みです。全圏域的な魅力創出活動や経済的活動を促す取り組みである観光資源や歴史、伝統文化の活用、それから地域資源の情報発信、雇用の創出、産業の活性化などを併せ持つこととなります。まずは、守りの機能によって、いわゆる住み良さ暮らし良さを高めることで人口流出を防止して、それから攻めの機能をもって魅力を高めることで、いろんな交流や外から人を呼び寄せることをしていこうということです。

次の6ページの表に、中部定住自立圏の取り組みの狙いをまとめています。内部の住民と外部の住民への影響と、関連する施策分野として整理しています。こちらで言うと、まずは内部の住民の方に、住んでいて良かったと感じてもらうことが重要だと思います。関連する施策としては、主に医療・福祉・住民参加となります。この時点で、外部の人は中部圏域を知っている程度です。次に、内部の住民には、中部圏域の中で楽しんでもらい、友達も呼ぼうと思ってもらい。外部の人は中部圏域に行こうと思ってもらい、訪問をするきっかけをつくる、ということで、情報・交流・観光の施策分野としています。次に内部の住民には、中部圏域の生活もなかなか良い、と対外的に言えるようになってもらい、外からは中部圏域の生活もなるほど良いなと思ってもらい。関連する施策としては公共交通・地産地消・情報になるかと思っています。次に内部の方が、他の地域よりも中部圏域で暮らそうと感じてもらい。外からは、中部圏域に住んでも良いなと思ってもらい、ということで、環境・教育・移住の面などの施策を充実させます。最終的には、インフラ整備によって都市機能を強めて、産業振興として、中部で働く、中部圏域の雇用を確保し、定住に結びつけることが重要ではないかと思っています。このように、まずは住んでいる方の暮らし良さを高める必要があると思います。そして、中部圏域の生活の価値観を圏域外に広め、移住促進を図り、人口流入を図ります。生活の価値観とは何かというと、「豊かさ」になると思います。健やかにいきいきと暮らせること、ゆとりをもって快適に暮らせること、安全・安心に暮らせることなどです。そのような、豊かさという部分が中部圏域の価値観として、活かせるような形で進めていければと思います。

そのような将来像の考え方を踏まえまして、柱を5つあげています。これは先ほどの可能性を踏まえた形となっています。1つは、「美しい自然環境、多彩な地域資源を活かしたまちづくり」です。2つ目に「安心・安全が確保された住み良いまちづくり」。3つ目に「活力・元気を創出する魅力あるまちづくり」。4つ目に「人やモノ、情報の流れを促し、結びつきを強めるまちづくり」。5つ目に「地域づくりを担う人を育成するまちづくり」。これらを今後進めるべき5つ柱としてあげています。

最終的には、将来像を表すキャッチフレーズで、中部圏域の将来像をまとめていきたいと

思っています。各分野から、安心・安全や豊かさ、元気、活力などキーワードや特性が出てきていますので、この辺りのキーワードを整理しながら、キャッチフレーズにしていきたいと考えています。

最後に参考として、「他圏域の将来像を示すキャッチコピー」をつけています。全国的に定住自立圏ビジョンの策定が進んでいる中で、将来像を表すキャッチコピーが示されているところをまとめたものです。中海圏域では、「出会いは なかうみ 動き出す 未来」としています。また、青森の八戸圏域では「人・産業が元気で・魅力を創造・発信する北東北の中部圏域都市」、宮崎県の日向圏域では『森・川・海の環』、『人の和』、『産業の和』で繋がる交流都市圏」としています。最終的には、中部圏域も特徴を活かしたキャッチコピーを作っていけたらと思っています。

以上、御意見をいただけたらと思います。

○ 池田委員

1回目の懇談会に出席していないので分からないのですが、将来像は夢物語として作るのか、一つの課題があって課題を解決するために財源は設けられるのかどうか、全体像として教えていただきたいと思います。

○ 事務局

資料4をご覧ください。定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて、総務省から示されている流れをまとめたものです。これで説明しますと、定住自立圏構想というのは市町が連携をし、取り組みを強化しようということで、手続きとしては左側にあるように、大きく1、2、3があります。「1. 中心市宣言書の公表」では、周辺市町を含めて積極的に倉吉市が取り組んでいきます、ということ平成21年に宣言として行っています。それを踏まえて次に、「2. 定住自立圏形成協定」ということで、倉吉市と各町が1対1で協定の締結を行います。そして、この協定の中に明記しないとイケないものが、右欄にありますように①から⑤まであります。ここで御確認いただきたいのが、③です。「連携する具体的事項」を概ね示さないといけない、ということになっています。これがないと「3. 定住自立圏共生ビジョンの策定」に進めないということで、手続きの関係上、先に具体的取組みを決めて、議会の議決を経て協定しているということです。そして、今回、皆さんに御協力いただいている「3. 定住自立圏共生ビジョンの策定」となっています。流れとしては、ここで初めて懇談会が設置できます。

現在の協定に規定している具体的な取組の内容は、次のページに記している通りなのですが、例えば、医療の分野であれば、そこに記載されていません。ですが、例えば、平日夜間の1次救急の問題が出てきましたので、その課題については、今後のビジョンにも反映するよう検討していかなければならないと思っています。このような場合、左に青字で書いていますが、再度、「2. 定住自立圏形成協定」の工程に戻り、合意・議決を経て、再度「3. 定住自立圏共生ビジョンの策定」の工程を経ることになります。これは、随時行って良いとなっていますので、2と3の工程を巡回するような形となります。そして、市町間で合意ができて、協定も行い、ビジョンに載せたものについて、「4. 具体的な取組の実施」を展開していきます。これについて、総務省は、中心市及び周辺市町に必要な支援を行うとしています。

そして、次のページが今年の3月に協定を行った内容で、具体的な取組の項目になります。

1 回目の懇談会でも御説明申し上げましたが、例えば、先ほど言われた陸上競技場の改修については、(1) イの④で「体育施設の機能の維持及び強化」とあり、括弧書きで倉吉市営陸上競技場の改修とあります。

この辺りについては、行政側で喫緊の課題として挙げていますので、今後、もし今回の課題を整理して各町と共有させてもらい、定住自立圏で取り組んでいこうとなれば、2 番の方の協定の変更の手続きをしていくこととなります。つまり、途中で何かを追加して取り組んでいく場合、また協定を結び直して懇談会で協議し、それについて国の方から交付金を支援してもらおうという、次から次へ協定を更新して、事業を行っていくようになっています。

○ 池田委員

これは策定期限というのがありますか。

○ 事務局

策定期限はないですが、ただ早くした方が支援を受けるためには良いかと思います。なお、ビジョンの期間としては5年間になり、毎年変更があれば変更していくこととなります。

また、今回出てきている課題については、ビジョンの最後の方に、今後検討しなくてはならない課題として整理をさせてもらって、次回の協定に向けてということで考えています。しかし、具体的な取組は合意がなされれば随時修正ができますが、将来像については、何度も変えるということにはならないので、今回の委員さんには長期的に見て、よく御検討いただきたいと思っています。

では、将来像の柱については、このままでいかせてもらいます。下のキーワードのところ、これまでの部会の意見の中で、例えば、安全・安心、健やか・住み良さというような言葉ありますが、他に何か中部圏域で医療福祉教育は表す部分で、キーワードがあればお願いします。

○ 池田委員

やはり、医療とかに関するものは、安全・安心がぴったりきます。

○ 小谷部会長

安全・安心かなと思います。

○ 事務局

これまでの意見交換の中身から考えても、この圏域には安全・安心がぴったりきますので、その部分を御検討いただいたところで整理させていただきます。

そうしましたら、本日意見をいただいた部分を修正させていただき、次の第4回（全体会）のところでは、ビジョンの素案を出させていただきたいと思っています。

## 5 その他

○ 事務局

次回の全体会の日程ですが、12月27日（月）の午後2時からでお願いします。

## 6 閉会

○ 事務局

本日は大変お忙しい中ありがとうございました。これで第3回部会を終了します。